

会 報

〈第372号〉

次代を築くヒューマンネットワーク

一般社団法人兵庫建築会



発行日:平成28年 10月1日

- 目次 ◎ 月例会報告 I 「三つの大震災と災害ボランティア」～熊本地震被災地の現状～
II 「ご存知ですか？介護現場の今！」
ひょうごボランティアプラザ災害支援アドバイザー 高橋 守雄氏・・・1～3頁
- ◎ 会員レポート『歴史、文化、産業遺産を活かした欧州のまちづくり』（第5回）
神鋼不動産（株）常任顧問 川端 宏幸氏・・・4頁
- ◎ 交流のひろば『鉄道模型のジオラマ（レイアウト）づくり』②
兵庫県県土整備部住宅建築局建築指導課
副課長 長谷川 和正氏・・・5頁
- ◎ お知らせ・・・6頁
- ◎ 広報コーナー 創立70周年記念講演会、みんなの住まい展・・・7～8頁

第450回月例会報告（平成28年9月8日 於：神戸三宮東急REIホテル）

I 「三つの大震災と災害ボランティア」～熊本地震被災地の現状～

II 「ご存知ですか？介護現場の今！」

ひょうごボランティアプラザ災害支援アドバイザー

社会福祉法人 K O B E 須磨きらくえん 前事務局長 高橋 守雄氏

《瀬戸本会長開会挨拶》

高橋講師は坂井、貝原、井戸知事に仕えられ、阪神・淡路以来の三大震災に猛烈な活躍をされてきた。当会の理念は、官民協力のヒューマンネットワークを基調に、地域の安全・安心の防災等に寄与していくことにあり、今日のテーマは貴重なお話であり感謝したい。

I 「三つの大震災と災害ボランティア」

～熊本地震被災地の現状～

○ はじめに

阪神・淡路大震災で災害対策本部の報道担当をし、以来21年間災害と向き合う仕事に携わり、県退職後もなお「災害支援アドバイザー」として、ひょうごボランティアプラザで従事している。また、その関係もあり、「災害ボランティア割引制度を実現する会」の全国の世話人をしている。

今、災害の現場はどうなっているかをお話したい。



高橋守雄講師

○ 東日本大震災：松島町

東日本大震災では、阪神・淡路大震災の経験を被災地に早く生かすべく1週間後の3月18日には井戸知事を先頭に大型バス4台で被災地に向かった。被災地は、行政機能も何もが混乱する中、唯一、17日に松島町と連絡がとれた。当時の松島町の西村副町長は、阪神・淡路大震災時に長田・鷹取の教会を中心にボランティアに入られ、ボランティアの大切さ、ありがたさ、そして、いざ災害ではボランティアに甘えるべきを知り、そのことから二つ返事で兵庫県のボランティアを受け入れて貰えることとなった。以来、5年5か月に亘り、被災地支援活動を続けている。

○ 災害関連死

阪神・淡路大震災は5年で仮設住宅が解消されたが、東日本大震災では、かさ上げ工事や原発事故の影響もあり、ようやく災害復興住宅が6割近くでき上がってきた。

そのような中で、阪神・淡路と同じように、災害公営住宅でもう孤独死とか自殺とかが出ている。平成28年6月末で宮城、岩手では災害関連死は9%程度だが、福島県では震災で亡くなった方が1,600名、それ以降に亡くなった方は2,00

0名を超え約56%となっている。福島県は、原発事故が大きく影響をしている。

○ **コミュニケーション麻雀**

内閣府から、被災地の仮設住宅の集会所に男性高齢者が集まるツールが何かないかとの照会があり、兵庫県を中心に介護施設で使っているコミュニケーション麻雀を紹介した。

認知症の予防で脳トレ効果があるとのことで、東日本大震災前から全国的に普及していた。2人～3人1組で、1.8メートル四方の卓を囲み、七並べやブロックつぶしとかして楽しんでいる。

この麻雀セットは一卓5万円するが、企業側からは義援金に比べ、より企業の顔が見えるこの麻雀セットが好まれ、全国的にTV放送されて大変な反響、引合いがあった。



コミュニティ麻雀を楽しむ仮設住宅のみなさん

○ **ボランティアの活動状況**

東日本大震災では、5年4か月を経た平成28年7月末で150万人が支援に入られている。実際にはもっと多くの方々が支援に入られている。

阪神・淡路では5年2か月（統計のある時点）で216万人もが支援に来られた。

熊本地震のボランティア数は、9月7日現在で11万2,000人に過ぎない。この3分の1が益城町の数字である。

現在は、社会福祉協議会の運営するボランティアセンターを通せば、木、金、土曜日しか活動できない。NPOとかは独自で行かれるケースがあり、そういった数はカウントされていない。

4月14日に発生した熊本地震は余震が多いことから、発生直後はボランティア活動も待ったがかかった。このため、熊本市でも益城町でも4月の19日、21日と、少し遅れてオープンすることになった。また、ボランティア関係車両の高速道路通行料の免除は、発生直後は取扱いから除外する通達が出されてしまった。

このような理由から、ボランティアの出鼻が

熊本地震のボランティア 現地で活動 少し待って

今後、被災地では更なる余震により、被害拡大や倒壊家屋等による二次被害が起こる可能性が懸念されています。また本日から明日にかけ九州地方では強い雨が予想されており、土砂崩れや土砂崩れが発生しやすくなる危険性があります。

現在、被災地では倒壊した家屋に取り残された住民の人命救助が行われており、緊急支援等の活動が重要となっています。

このような状況から、現在被災地ではボランティア活動の受け入れや活動が非常に困難な状況にあります。

ご自身の身の安全や被災地の救命活動を最優先にお考えいただき、現時点でのボランティア活動は控えていただくことを強くお勧めします。

くじかれ、数字に表れることとなった。阪神も東日本は、1回ボランティアに行けば、また次行こうというリピーターがあればこそその数字である。

そもそも全国の社会福祉協議会のボランティアセンターは福祉事業が中心で、災害発生すれば災害ボランティアに看板替えとなるもので、緊急事態への受援体制、受援力が今後の課題である。

兵庫県では、去年の4月にガイドラインを策定し態勢を整えた。



ボランティア登録に並ぶ人たち：益城町

○ **ボランティアインフォメーションセンター**

阪神・淡路では沢山のボランティアがきてくれたが、無秩序に入ったため被災地では混乱が生じた時があった。ボランティアを捌くところがなかったのが原因である。

その教訓を検証して次の大災害時に生かそうとしてできたのが東北道に設けたボランティアインフォメーションセンターである。資金は全て兵庫県が出し、被災地のボランティアセンターが活動できるまでの1か月間、ボランティアの整理をした。鯉のぼりを目印とし、これを目指して沢山のボランティアが来てくれた。場所は、仙台・宮城のインターチェンジにNEXCO東日本が施設を提供してくれた。さらに、この教訓が、来るべき南海トラフ巨大地震とか首都直下型地震に生かされるものとする。



熊本に向かう兵庫県ボランティア

○ **ボランティア割引制度**

ボランティア割引制度の創設要求を全国で35万人の署名を集め、昨年、内閣府に届けた。東日本ボランティア活動が減少している原因について、

内閣府のボランティア担当が調査したが、その40%が、旅館代、交通経費の負担が大きいことであった。国も承知のことで、超党派による立法化が進んでいくと思う。

○ 心のケア

熊本地震の被災地の小中学生3,222人がカウンセリングを必要とされている。そのうち益城町は632人いるが、町内小中学生の26%にもなる。神戸のアトリエ太陽の子が現地で心のケア対策の活動をしている。

II 「ご存知ですか？介護現場の今！」

○ 高齢者人口と介護認定

2025年には65歳以上の高齢者人口は3,657万人と30.3%に達する。さらに団塊の世代が85歳以上になる2035年頃の問題が大きい。

特養への入所は、従来は介護1以上が対象であった。これまで、要支援1及び2、要介護1までが軽度者としていたものが、昨年から介護2までを軽度者と扱うこととなり、特養への入所は介護3以上に改正された。介護2以下の方は、市町村対応となるが、そのような職員配置となっていないのが現状である。

○ 介護現場の課題

介護離職とは、会社を辞めて親の面倒を見ることが本来の意味あいであるが、もう一つは、介護現場にいる職員がどんどん辞めていく現象も指している。介護離職を止める方法を考える必要がある。

介護職員は、国では将来何十万人足りないと言われるが、確保のための保障に乏しい。

賃金を比較すると介護職員は、一般企業の職員に比べて平均で10万円位の差がある。このため、国は処遇改善手当を月額1万2千円支給しているが、対象は原則介護職員でほとんどの事務職、看護師などは恩恵を受けていないのが現状である。これでは介護離職の解決にならないのではないかと。

○ 施設介護と在宅介護

特養への入所にあたって、入所費を抑えるため夫婦の世帯分離という手法があったが、これは認められなくなり、預貯金はもとよりタンス預金まで調査されることとなった。

このために高齢者の老々離婚も取り沙汰されている。離婚をすれば相手の財産はカウントされないが、遺産相続上の問題があり感心できない。

国では、高齢者を支える「地域包括ケアシステム」を構築しようとしている。家族や地域のボランティア、NPO皆で高齢者を支えようとするものである。

しかし、今は支える中心が段階世代の60、70代であるが制度完成の2025年度には、現在、ボランティア側の方が、皆、受けるほうになり、「絵に描いた餅」になってしまう恐れがある。

サービス付き高齢者向け住宅や介護施設を建設するが、人材が足りないため全てをオープンできない施設が一部にある。

少子化が進む中で、介護現場での働き手は少ない。厳しい介護現場では、夜勤で20の部屋を少ない職員で見ているケースがあり、ナースコールが入り対応していると別の部屋が鳴る。不思議と一緒にいる。夜勤明けの頑張っている職員を見ると待遇の改善が必要であると痛感する。介護離職がなかなか減らないのが現状である。

県民の半分は施設介護を望んでいるが、国は在宅介護へ誘導しようとする。10年先は介護難民で溢れる世の中になる恐れがある。

《自宅又は施設介護に関する調査》

(兵庫県：平成26年調査より)



「あなたご自身・ご家族が介護の必要な状態となった場合、自宅と施設どちらの介護を望むか」の問いに対し、左が「自身」の場合で47%、右が「家族」の場合で43.8%の方が、施設介護(赤色部分)を望んでいる。(事務局注：講演資料より)

《地域包括ケアシステム》

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても澄んだ地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していく。

(事務局注：厚生労働省HPより)



月例会会場風景

現代社会の二つの大きな課題、短時間での講演で大変だったと思います。わかりやすく説明いただきよく理解できました。益々需要が高まるお仕事ですが、ご活躍をご祈念申し上げます。(事務局)

会員寄稿
『歴史、文化、産業遺産を活かした
欧州のまちづくり』 (第5回)

神鋼不動産(株) 常任顧問 川端 宏幸氏

今月は、オランダを取り上げる予定でしたが、
今月 13 日に当会創立 70 周年記念として、兵庫県
公館において、兵庫県立美術館の蓑館長に講演い
ただく予定ですので、急遽、フランス・パリのオル
セー美術館を取り上げることにしました。

オルセー美術館

オルセー美術館は、1900 年のパリ万国博覧会の
開催に合わせて、オルレアン鉄道の終着駅として
建てられた駅舎兼ホテルであった。設計者は、ヴ
ィクトール・ラルーである。

1939 年に鉄道駅として役割を終え、様々な用途
に用いられ、一時は取り壊しの話もあったが、
1970 年代からフランス政府によって保存活用策
が検討され、19 世紀美術を展示する美術館とし
て再生され、1986 年にオルセー美術館が開館した。



▲ オルセー駅から引き継いだ大時計

美術館の方針としては、原則として 2 月革命の
あった 1848 年から、第一次世界大戦が勃発した
1914 年までの印象派の作品を中心に展示し、ルー
ブル(古代~1857 年)、国立近代美術館(1915 年~)
とともに、各時代をカバーする 3 大美術館のひと
つとなっている。

地上階(1 階)には、古典派のアンゲルから始まり、
ドラクロワ、ミレーやコローなどのバルビゾン派、
写実主義のクールベ、初期印象派などの作品が展
示されている。

鉄骨とガラスで構成されるアーチ状のドームと

窓から柔らかな光が美術館全体に降り注ぎ、装飾
が施された壁、通路に置かれた彫刻など一体と
なり、19 世紀後半のフランス近代美術黎明期の雰
囲気を醸し出している。



▲ オルセー美術館のエントランス



▲ 美術館の内部

5 層に別れた各階の展示ブースの配置と各階の
移動に用いるエスカレーターの動線計画が優れて
おり、子供からお年寄りまで誰にも見やすく、分
かりやすい展示構成となっている。



▲ 周辺のサン・ジェルマン・デ・プレ

次回は、オランダに戻ります。

交流のひろば
『鉄道模型のジオラマ（レイアウト）
づくり』②

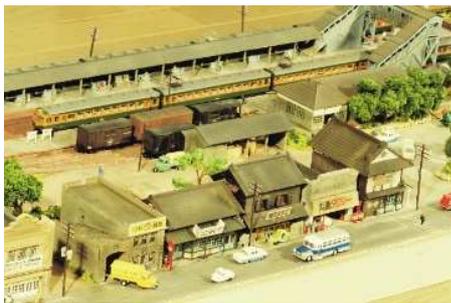
兵庫県建築指導課 副課長 長谷川 和正

前回掲載しました鉄道模型のジオラマについて、
その他のパーツの写真も整理できました。要請も
ありましたので、追加報告させていただきます。



鉄道模型のジオラマ全景（前回掲載分）

① まずは、昭和40年代前半の駅前風景です。



①駅前
風景

② 蒸気機関車のいる機関区は、既に失われた憧
れの施設で、写真集を参考にして作りました。



②蒸気
機関
のいる
機関区

③ 機関区は転車台と扇形機関庫のあるタイプ
のものも欲しかったので、別に作成しました。

④ 前回の蔵造り商家の向かい側は、現実にはあ
り得ませんが、関西の虫籠窓の商家としていま
す。

⑤ 蔵造り商家の裏側は、なまこ壁にしました。

⑥ 片方の曲線区間は、鉄道の原風景としてはず
せない鉄橋とトンネルと田園風景にしました。



③ 転車台
等のある
機関区



④ 虫籠窓
の商家



⑤ 蔵造り商
家裏側のな
まこ壁



⑥ 鉄橋と
トンネルと
田園風景

⑦ もう一方の曲線区間は、国鉄バス車庫、役場、
工場等のある産業ゾーンのエリアとしました。



⑦ 国鉄バス
車庫等の産
業ゾーン

前回の紹介で、会員の“鉄ちゃん”から賞賛の声が
届きました。やはり自前のレイアウトで自慢の
車両を走らせるのが“夢”のようです。
原風景を想像しながらの精密な作品作りには感
心させられます。次が待たれますね。（事務局）

お知らせ

◎行事ご案内

○住生活月間イベント

『兵庫・神戸 みんなの住まい展』

日 程：平成28年10月15日（土）
～16日（日）

会 場：神戸ハーバーランドスペースシアター外
当会はイベント実行委員として事業に参画します
ので、会員の皆様には是非会場へお運び下さい。

創立70周年記念講演会 (第451回月例会)

日 程：平成28年10月13日（木）
13：30～16：00

会 場：兵庫県公館
(神戸市中央区下山手通4丁目4-1)

第一部 (13:30～14:45)

講演会：『建築がまちを変える』

講 師：兵庫県立美術館館長 蓑 豊氏

第二部 (15:00～16:00)

公館改修工事説明・見学会

予定を大幅に上回る参加者となりました。
ご協力を感謝します。

創立70周年記念研修交流会 第153回建築会ゴルフコンペ

日 程：平成28年10月27日（木）
9：03～アウト・インスタート各3組

会 場：城山ゴルフ倶楽部
(加古川市志方町野尻808-1)

競 技：18ホールストロークプレー
(ダブルペリア)

募集枠に達しましたので、申込を締め切りました。
ありがとうございました。

創立70周年記念式典・祝賀会 (兼平成29年新春会員交流会)

日程：平成29年1月12日（木）
17時00分～19時30分

会場：神戸三宮東急REIホテル
ご案内は11月になりますが、ご予約をよろ
しくお願いします。

○平成28年度見学研修会のご案内

日 程：平成28年11月17日（木）

見学先：京都市

① 京都鉄道博物館

「地域と歩む鉄道文化拠点」を基本コンセプトに平成28年4月開業したばかりで、鉄道の歴史を通して日本の近代化のあゆみが体感できる鉄道の総合博物館です。

<https://www.westjr.co.jp/railroad/fan/kyotorailwaymuseum/>

② 世界遺産「二条城」

徳川家康が京都御所の守護、上洛の宿泊所として造営し、家光が伏見城の遺構を移築するなどして、1626年に完成したものです。絵画、彫刻など桃山時代様式的全貌が垣間見ることができます。

<http://www2.city.kyoto.lg.jp/bunshi/nijojjo/>

③ 南禅寺：臨済宗南禅寺派大本山

三門は高さ22m、「天下龍門」と呼ばれ日本三大門の一つ。楼上に登り絶景を楽しめます。

水路閣は1888年建設。全長93m、美しいアーチを描き、現在も疎水として活用されています。



<http://nanzen.net/>

④ 昼食：南禅寺前の老舗「順正」(登録有形文化財)にて名物のゆどうふ料理

ご案内中です。ご参加よろしくお願ひします。

○事務局便り

台風の大挙襲来と秋雨前線により各地で水害が相次ぎました。野菜も大打撃でカレー作りもおぼつきません。淡路玉ねぎのベト病も心配されます。

さて、いよいよ秋本番となり、行事も目白押しです。ご協力により参加者の募集も順調に進んでいます。11月の研修旅行につきましてもよろしくお願ひします。

事務局：谷 純夫、石井滝実子
電話：078-996-2851
FAX：078-996-2852
Email：archit-k@axel.ocn.ne.jp

《創立70周年記念講演会》

兵庫・神戸 みんなの住まい展 協賛イベント

参加
無料

歴史と文化の香る 兵庫県公館改修記念講演・見学会

～（一社）兵庫県建築会 創立70周年記念～



兵庫県公館は、明治35年(1902)年に兵庫本庁舎として建設された歴史的な重要建造物です。

特に昭和60年(1985)年に、迎賓館と県政資料館を併せ持つ兵庫県公館として整備されてからは、阪神・淡路大震災を乗り越え、賓客の接遇や式典利用だけでなく、兵庫ゆかりの芸術家たちによる作品を多数展示するなど県民の皆様大変親しまれています。

このたび、30年ぶりに屋根及び外壁の改修を終えた兵庫県公館において、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして開館した兵庫県立美術館の美術館長による講演会とともに、公館改修工事の説明・見学会を実施します。

この講演・見学会は官民協力による戦災復興を契機として創立され、阪神・淡路大震災の復興など兵庫県のまちづくりに貢献してきた一般社団法人兵庫県建築会創立70周年を記念し共催で開催します。

平成28年10月13日(木) 13:30～16:00
会場：兵庫県公館 第1会議室

定員：100名(先着順、定員になり次第締め切ります) 申込締切：平成28年9月9日

【第一部】講演会 (13:30～14:45)

講師：兵庫県立美術館 館長 養 豊 氏
『建築がまちを変える』



【第二部】公館改修工事説明・見学会 (15:00～16:00)

説明：設計監理 兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課
左官工事監修 竹中大工道具館
施工 株式会社柄谷工務店

主催 兵庫県／（一社）兵庫県建築会

後援 （一社）兵庫県建設業協会／（公社）兵庫県建築士会／（一社）兵庫県建築士事務所協会
兵庫県建築設計監理協会／（公社）日本建築家協会近畿支部兵庫地域会

《兵庫・神戸 みんなの住まい展》

見て・聞いて・触れて みんなで考えよう これからの住まい



ご家族揃って
楽しめる2日間!
みなさまの住まいづくりを
応援します!

兵庫・神戸
みんなの **住まい展**



2016 10月15日(土) 10:00~17:00 · 16日(日) 10:00~17:00

第1会場 ▶ スペースシアター(ハーバーランド)
第2会場 ▶ ハウジング・デザイン・センター神戸(HDC神戸)
第3会場 ▶ ABCハウジング神戸駅前住宅公園

キーワードラリー開催!
会場をまわって、豪華商品をGETしよう!

住まいに関するイベント盛りだくさんでお待ちしております!



第1会場 ▶ スペースシアター(ハーバーランド)

- 各種セミナー
- ものづくり体験
- イベントブース出展
(相談会、パネル展示等)

同時開催
第28期 住生活月間中央イベント
スーパーハウジングフェアin兵庫
(主催)住生活月間中央イベント実行委員会
(後援)国土交通省、住宅金融支援機構、
都市再生機構、兵庫県、神戸市
※詳しくはP.125参照してください。



第2会場 ▶ ハウジング・デザイン・センター神戸(HDC神戸)

- 各種セミナー
(5階 ギャラリーで開催)
- 親子で楽しめるイベントも開催!!

入館にてお礼マルシェの開催も開催!
数軒の肉類・果産野菜などを販売します!
(※HDC神戸A口 9階11号室~16号室 9月10日~12日開催)

第3会場 ▶ ABCハウジング神戸駅前住宅公園

- 設置車による地震体験
- 親子で楽しめるイベントも開催!!



(主催)兵庫・神戸みんなの住まい実行委員会
(協賛)エービーシー一興株式会社、神戸新聞社、一般社団法人まちづくり公社、(後援)住宅金融支援機構兵庫県支部、(協賛)日本不動産協会兵庫県本部、(協賛)都市再生機構西日本支社、(一社)兵庫県建設業 土工部会、(一社)兵庫県建設 建築協会、(一社)兵庫県建設士会、(一社)兵庫県建築士事務所協会、兵庫県住宅供給公社、(協賛)兵庫 県住宅供給センター、(一社)兵庫県建設業協会、(一社)兵庫県住宅供給センター建設部、(一社)兵庫県下町建設士協会、兵庫県、神戸市